

《課題名》

膀胱癌の再発進展に関連する免疫抑制性細胞の病理学的検討

《対象者》

1991年1月から2012年12月の期間に経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けられた方

2007年1月から2016年4月の期間に病理解剖を受けられた方

研究協力をお願い

当科では「膀胱癌の再発進展に関連する免疫抑制性細胞の病理学的検討」という研究を行います。この研究は、1991年1月から2012年12月までの期間経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けられた方の臨床情報と、比較対象として癌のない患者様の臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：膀胱癌の再発進展に関連する免疫抑制性細胞の病理学的検討

研究期間：承認日（2015年10月27日）～2021年3月31日

実施責任者：滋賀医科大学 泌尿器科学講座 影山進

(2) 研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

近年、癌の進展や再発において免疫抑制性細胞の関与が注目されている。浸潤性膀胱癌においても、代表的な免疫抑制性細胞である制御性T細胞やM2型マクロファージの腫瘍周囲への浸潤が予後と相関するといった報告が少数存在する。しかしながら筋層非浸潤性膀胱癌においてはM2マクロファージの腫瘍周囲への浸潤と再発率が相関するといった報告がある一方、免疫細胞の関与は少ないといった報告も存在し、議論の余地がある。

本研究では、本学に保管されている膀胱癌のパラフィンブロック標本と癌のない患者様の正常膀胱組織標本を用いて膀胱癌周囲に浸潤する免疫抑制性細胞をターゲットとして免疫組織学的検査を行い、免疫抑制性細胞の膀胱癌と正常膀胱での比較、免疫抑制性細胞と膀胱癌の予後との関連を後方視的に検討する。本検討の成果によって、膀胱癌の再発や進展に対する免疫抑制性細胞の相関が明らかとなり、さらに膀胱癌組織周囲での挙動が明らかとなれば、これらの免疫抑制性細胞を標的とする治療開発につながる成果となると考える。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

本学附属病院検査部に保管されている膀胱癌パラフィン包埋ブロックを借り受ける、また、本学剖検標本室に保管されている剖検患者様の膀胱組織パラフィン包埋ブロックを借り受ける。

本学実験実習支援センターに設置されているミトクロームを用いてブロックを薄切し、組織スライドを作成する。

抗CD163, CD68, Foxp3, CD3, LAP (TGF β 1)抗体等を用いて免疫組織学的染色を行い、陽性細胞数を測定する。

膀胱癌組織と正常膀胱組織での比較を行い、つぎに各膀胱癌症例の診療情報から再発や全生存期間などの予後に関連する情報を取得し、 Kaplan-Meier法等の統計手法をもちいて、各種免疫抑制性細胞の腫瘍周囲組織への発現量と予後（再発率）との関連を後ろ向きに検討する。

(4) 予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌で公表します。

(7) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 泌尿器科学講座 影山進

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2273

メールアドレス： hquro@belle.shiga-med.ac.jp